

インフォーマルミーティング報告 第4回計算科学研究部会総会

当学会計算科学研究部会の第4回総会が、第33回年会のインフォーマルミーティングとして開催された。計算科学研究部会の部会員数は現在55名であり、今回の出席者は部会員以外も含めて28名であった。研究部会の内規に従い、部会長の福山淳（京大）より、事業報告として研究部会メールの配信とWebサイトの運用の現状が報告され、事業計画としてそれらの継続と計算科学教育の推進が提案され、いずれも承認された。引き続いて、石黒静児氏（核融合研）が堀内利得氏（核融合研）に代わってHPCI コンソーシアムの活動について報告し、今後のHPCIシステムの整備・運用のあり方に関する提案について意見交換が行われていることが報告された。ついで宮戸直亮氏（量研機構）がIFERC 計算機シミュレーションセンターの運用状況を、石黒静児氏（核融合研）が核融合研のプラズマシミュレータの運用状況を報告した。また矢木雅敏氏（量研機構）が平成28年末で運用を終了するIFERC計算機の後継計算資源について、平成29年度は現行システムの一部が欧州側から譲渡されて運用され、平成30年度の新システム導入に向けて概算要求が進められていることを報告した。引き続き、渡邊智彦氏（名大）が核融合計算科学に関する今年度の日米WSについて報告し、来るべきエクサスケール計算の時代に先駆けて、高効率のシミュレーション・コード開発を推進し、核融合プラズマの閉じ込め性能評価の向上を目指していることが紹介された。さらに長友英夫氏（阪大）がレーザー分野の動向について報告した。最後に、計算科学研究部会の今後のあり方について議論が行われた。主な発表資料は <http://bpsl.nucleng.kyoto-u.ac.jp/dcsr/> に掲載されている。（世話人：京大 福山淳）